



1 人吉市の一般会計等財務書類(令和2年度) 概要版

「貸借対照表」とは、市民の皆様が利用する市の施設(財産)、市の保有する現金や債権、資産形成のために投資された資金などが、どのくらいあるのか示したもので、資産・負債・純資産の三つの要素から構成されています。

市民1人当たりの資産は、151万5千円です。
市民1人当たりの負債は、67万9千円です。
(R3.3.31住民基本台帳人口:31,176人)

資金収支計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

期首(元年度末)資金残高
3億4千万円

当期収支 **10億4千万円**
【内訳】
業務活動収支 18億1千万円
投資活動収支 **△26億5千万円**
財務活動収支 18億8千万円

期末(2年度末)資金残高
13億8千万円

1年間の市の現金の収入(歳入)と支出(歳出)がどのような理由で増減しているかを活動別に区分し整理したものが「資金収支計算書」です。

業務活動収支では、行政サービスを行う中での継続的な収支を示し、特別交付税や災害救助費負担金などの増が、人件費や社会保障費などの支出を上回ったことで業務活動収支がプラスとなりました。

投資活動収支では、公共施設の整備や投資・貸付金などの収支を示しており、基金の取り崩しも含まれますが、市庁舎建設などの公共施設整備が増となり、投資活動としてはマイナスとなっています。財務活動収支では、主に地方債の借入や償還を示し、災害復旧事業に伴う借入額が大きく増となり、プラスとなっています。

行政コスト計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

経常行政コスト・・・①
239億1千万円

【内訳】
人にかかるコスト 30億1千万円
職員の給与・退職手当など
物にかかるコスト 83億円
物品購入、光熱水費、施設の修繕費、減価償却費等
移転支出的なコスト 124億4千万円
児童手当や生活保護などの社会保障給付、各種団体への補助金、繰出金など
その他のコスト 1億6千万円
地方債の利子など

経常収益・・・② **10億円**
行政サービスを利用することで直接負担する施設使用料や手数料など

純経常行政コスト(①-②)・・・A
229億1千万円

臨時損益・・・B **2億9千万円**
災害復旧事業費や資産売却損益など

純行政コスト(A+B)
232億円

市の行政活動は、福祉や教育などでの人的サービスや給付サービスの提供などの行政サービスが大きな比重を占めています。そのためのコスト(原価・費用)がいくら掛かっているかを整理したものが「行政コスト計算書」です。行政サービスのコスト管理を図るうえで役に立つ財務書類といえます。1年間のコスト総額は239億円で、市民1人当たり76万7千円となっています。

貸借対照表

令和3年3月31日現在

借方		貸方	
資産	472億3千万円	負債	211億6千万円
市が所有している財産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。		借入金(市債)や将来の職員の退職金など、将来世代の負担で返済していく債務です。	
【資産内訳】		【負債内訳】	
公共資産 385億4千万円		固定負債 191億5千万円	
道路、橋、公園、学校、庁舎など		1年を超えて支払う必要がある債務	
投資等 23億2千万円		流動負債 20億1千万円	
基金、出資金、長期延滞債権など		1年以内に支払う必要がある債務	
流動資産 63億7千万円		純資産	260億7千万円
現金・預金、財政調整基金、市税等未収金など		現世代が既に負担して、支払いが済んでいる正味の資産です。	
【流動資産おもな内訳】			
資金残高 13億8千万円			
未収金 31億4千万円			

純資産変動計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

期首(元年度末)純資産残高
225億円

当期変動高 **35億7千万円**
【内訳】
純行政コスト **△232億円**
財源(税収等・国県等補助金) 267億6千万円
その他の変動 1千万円

期末(2年度末)純資産残高
260億7千万円

「純資産変動計算書」は、市の純資産(正味の資産)がどのように増減したかを示します。市が保有する資産のうち、現役世代で負担しているものが約6割、将来世代への負担となっているもの(負債)が約4割ということを表しています。市が保有する資産の中には、将来にわたりサービスを供給するもの(道路など)が多数ありますので、現役世代と将来世代のバランスを見るうえで役に立つ財務書類といえます。

一般会計等財務書類

一般会計
人吉球磨地域交通体系整備特別会計